



雪虫がふわりと舞い始めましたね。まるで「そろそろ冬支度をしなさい!」と知らせにきた小さな使者のようです(笑)
もうすぐ「手袋」や「耳あて」の季節…子ども達の鼻の頭が赤くなっていくのを見ると「ああ～北海道の冬がくるなああ～」と感じます。寒さの中にも暖かさが溢れる季節。風邪をひかずに、元気に過ごしていきたいですね(笑)

つぼみぐみや年少児達の音楽リズムの活動では、
タンバリンや鈴、ウッドブロックなどの打楽器が
仲間入り…音を鳴らす度に「もう一回」と瞳が
輝きます♪

年中・長児達の鍵盤ハーモニカとハーモニカも
レパートリーがどんどん増えてきましたよ。
みんなで音を合わせる「合奏」の楽しさも加わり、
合奏の中で「みんなで作る音楽」へと育っていく
姿に成長の確かな歩みを感じます。

製作活動でも絵の具や紙粘土、落ち葉や木の実など
季節の素材を使って、想像力溢れる作品づくりに夢
中です。

同じ材料を手にしても、出来上がる作品はどれも違
い、その子らしさが光ります。

個性の翼を大きく広げながら、豊かに育っていく白
ゆりっ子達…秋はそんな一人ひとりの輝きを見つけ
るのが一番楽しい季節です。



明日31日は入園願書受付日
のため休園日です。お間違ひ
のないようご注意ください。
なお、預かり保育はあります。



日	月	火	水	木	金	土
						1 参観日 (少・中・長) *つぼみぐみ休園 預かり保育*
2	3	4 文化の日	5 振替休日	6 カンガルー英語 (少)	7 コスモクラブ (長) *年長児体育館	8 預かり保育
9	10	11 預かり保育	12 カンガルー英語 (中)	13 預かり保育	14 コスモクラブ (中) *年中児体育館	15 預かり保育
16	17	18 預かり保育	19 カンガルー英語 (長)	20 預かり保育	21 コスモクラブ (少) *年少児体育館	22 預かり保育
23	24	25 勤労感謝の日	26 振替休日	27 *年少児お弁当日 *年中児お弁当日 *年長児お弁当日	28 お誕生会 *年少児お弁当日 *年中児お弁当日 *年長児お弁当日	29 コスモクラブ (つ) *つぼみお弁当日 預かり保育
30						

11月1日(土)は休日参観日です。つぼみぐみのお子さんは休園です。24号でお知らせしてある通り、登降園時の
注意事項に従って下さい。降園時は幼稚園周辺の混雑を避けるため学年毎に時間差降園となります。あらかじめ、幼稚
園周辺以外の場所にピックアップポイントを決めて幼稚園周辺の混雑緩和にご協力下さい。

=スキンシップは言葉よりも深い愛情表現=

赤ちゃんを抱きしめると、心がずっと落ち着く…これは親の側だけの感覚ではありませんね。赤ちゃんもまた、
温かな腕の中で安心し、世界を信じる力が少しずつ育っていきます。

かつての日本は、抱っこやおんぶ、添い寝が当たり前の光景でした。母親だけでなく、祖父母や近所の人も子ども
をあやし、地域全体で子どもを育てていた時代。人の温もりを通して、子どもは人を信じ、安心を学びながら育っ
ていったのです。

ところが、戦後の高度成長期に入ると、「アメリカのように独立心を育てることが良い」との考え方が広がりまし
た。昭和39年に厚生省(現・厚労省)が作成した母子手帳の副読本には、「赤ちゃんは一人で寝かせる」「抱き癖
をつけないように」という内容が記され、日本の伝統的な子育てが「古いもの」として否定されてしまったのです。

これに強く異を唱えたのが、熊本大学の潮谷愛一先生です。先生は「赤ちゃんにとって、抱っこやおんぶ、添い寝
は心の栄養であり、母子のスキンシップこそが情緒の土台になる」と訴え、長い年月をかけて研究を続けました。
やがて昭和60年、厚労省は方針を大きく転換し、「スキンシップは心の発達に良い」との考えが再び広く認められ
るようになったのです。

この約20年の間で、日本の子ども達の育ちには少しずつ変化が現れました。人との関わりに不器用な子、心の距
離をつかむのが難しい子が増え、社会全体でも「人と人との繋がり」が薄れていった時代でもありました。

昭和40年代に生まれた子どもが中高生になった頃、校内暴力が起き、生徒が教師に暴力を振るうという時代があ
りましたが、「これも“アメリカ式”の影響?」という声もありました。

教育者・渡辺京二さんの著書『逝きし世の面影』には、幕末から明治にかけて日本を訪れた多くの外国人が「日本
の子どもは幸福そうだ」「大人の言うことをよく聞き、よく笑う」と驚きをもって記していたことが紹介されてい
ます。それほどまでに、日本の子ども達は温かな眼差しの中で育ち、やがて近代日本を支えた立派な人材に成長し
ていったのです。

抱っこやおんぶは、ただの「昔ながらのやり方」ではありません。人を信じ、他者と心を通わせる力を、親子の温
もりの中で育てるという日本人の知恵そのものです。

もちろん、現代の生活は当時とは違います。共働きが増え、家族の形も多様化しました。「一人で寝かせる」「ミル
クを使う」など、それぞれの事情や価値観に沿った選択があるのも自然なことです。大切なのは、「どの方法が正
しいか」ではなく、「その子と、どう心を通わせているか」です。どんな方法であっても、子どもが「自分は大切
にされている」と感じられる瞬間を積み重ねていくことが、何よりの育ちになります。

昔の人は「育児は育自」と言いました。子どもを育てることは、自分自身が育つこと。赤ちゃんが0歳なら、親も
また「子育て0歳」です。失敗も、迷いも、誰もが通る道です。

子どもが成長していくように、親も少しずつ成長していけばいい…抱っこする腕の中で、自分の心もやわらかく
なっていく…そんなふうに、子どもと一緒に歩んでいけたら…それこそが、昔から日本に受け継がれてきた「伝
統的育児」の本当の姿なのかもしれません。

